

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意

祛湿剂 清熱祛湿剂 2

<p>れんぽくいん 連朴飲</p>	<p>燥湿清熱・理氣和中</p>	<p>厚朴 6g・黄連 (姜汁炒) 3g・菖蒲 3g・製半夏 3g・淡豆豉 9g・山梔子 9g・芦根 60g 水煎し温服する。</p>
<p>霍乱論</p>	<p>&lt;主治&gt; 湿熱鬱阻中焦 (湿熱俱盛) 発熱、胸や腹が痞えて苦しい、悪心、嘔吐、下痢、尿が濃い、舌苔は黄膩、脈は濡数など。 &lt;病機&gt; 湿温 (湿熱俱盛) が中焦に侵入して脾胃を鬱阻し、昇降が失調した状態である。 湿熱の内蒸により発熱が続き、湿熱が氣機を阻滯するので胸や腹が痞えて苦しい。昇降が失調して胃氣上逆の悪心、嘔吐と、脾湿下降の下痢がみられ、湿熱が下迫するために臭気が強い頻便を呈する。湿邪が三焦を阻滯し、熱邪が津液を煎熬するので、尿量が少なく尿色が濃い。舌苔が黄膩、脈が濡数は湿熱を示す。 &lt;方意&gt; 清熱燥湿、理氣和中により脾胃の昇降を回復させる。 苦寒の黄連・山梔子は清熱瀉火、燥湿に、苦辛温の半夏・厚朴・菖蒲は理氣、燥湿化濁に働き、更に辛開苦降により和胃降逆、消痞除痞の効果を表わす。淡豆豉・山梔子は胸脘の鬱熱を宣泄する。芦根は、清熱利湿、和胃止嘔すると同時に、生津の効能により傷津を防止する。全体で清熱燥湿、理氣和中、辛開苦降、宣泄鬱熱の効能を通じて昇清降濁する。 &lt;参考&gt; 本方 (連朴飲) は利水薬の配合がなく、昇清降濁することにより止瀉の効果をj得ることが出来る。半夏瀉心湯のj効果と類似しており、本方 (連朴飲) には芳香化湿の配合があるのに対し、半夏瀉心湯には健脾薬の配合があるという相違がある。 水様の下痢を呈する場合には、利水の滑石などを配合する方がよい。</p>	
<p>半夏瀉心湯去人参乾姜甘草加枳実杏仁方</p>	<p>燥湿清熱・化痰行氣</p>	<p>半夏 30g・黄連 6g・黄芩 9g・枳実 6g・杏仁 9g 水煎し服用する。</p>
<p>温病条弁</p>	<p>主治は、陽明暑温、脈滑数、食せず飢えず便せず、痰濁凝聚し、心下痞するもの。 湿温で心下の痰濁凝聚を生じ、心窩部の痞え、悪心、嘔吐、食欲不振、便秘などの胃氣上逆を呈する状態である。 半夏・枳実をもって氣分の湿結を開き、黄連・黄芩は氣分の熱結を開き、杏仁は肺と大腸の氣痺を開く。</p>	